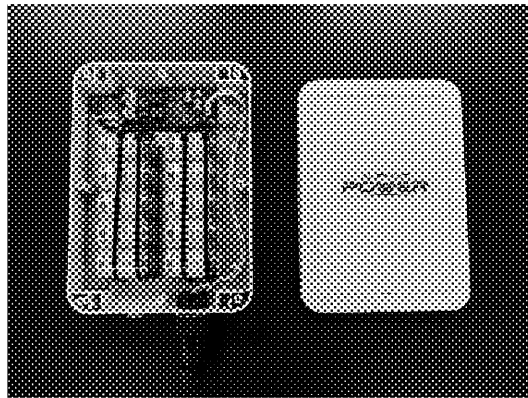


屋外用電源ボックス

監視システム向け標準

光アルファクス3年で1億円狙う



光アルファクスが開発した屋外用電源ボックス「アルファイオパワー」

光アルファクス（大阪市北区、川井啓社長）は自社開発の屋外用電源ボックス「アルファイオパワー」を2025年度までに1億円販売する。水位・積雪などの監視システム向けで、更新需要を見込む。同社は半導体や電子部品を扱うエレクトロニクス商社。事業多角化のためメーカー機能を強化しており、今後はIoT（モノのインターネット）関連機器を「アルファイオ」シリーズとして拡充する。

アルファイオパワーは一般的な屋外用電源使い切りの一次電池をは設置できる場所が限られ、パネルの汚れを定期的にメンテナンスする必要がある。アルと二次電池で構成すファイオパワーは安定し

て性能を発揮する点を訴求し、差別化を図る。

サイズは幅200ミリ×高さ280ミリ×奥行65ミリ。170ワット（重さ約2.5キログラム）と85ワット（同約2.0キログラム）の電力ラインアッパで、出力は12ボルト・5ワット・3ボルト系から選べる。販売価格は消費税抜き1台19万8000円。

光アルファクスの22年3月期の売上高は422億円だった。川井社長はアルファイオシリーズについて「将来的には売上高の10%程度を占めることを目指す」としている。アルファイオパワーのほか、スマートカメラなどの独自製品を開発・販売している。